

一 現世安穩 後生善処ごしやうの事

仰せに云はく、所詮此の妙法蓮華經を聴聞し奉るを現世安穩とも後生善処とも云へり。既に上に「是の法を聞き已おはって」と説けり。聞は名字即の凡夫なり。妙法を聞き奉る所にて即身成仏と開くなり。「若し能く持つこと有らば即ち仏身を持つなり」とは是なり。聞の故に持ち奉る、持ち奉るが故に三類ごうてきの強敵来たる、来たるを以て現世安穩きもんの記文顯はれたり。法華の行者なる事疑ひ無きなり。法華の行者はかゝる大難に値ふべしと見えたり。大難に値ふを以て後生善処けつじやうの成仏は決定あにせり。是豈現世にして安穩なるに非ずや。後生善処は提婆品に分明に説かれたり。所詮現世安穩とは法華經を信じ奉れば、三途八難の苦を離れ、善悪上下の人までも皆教主釈尊同等の仏果を得て自身本覺の如来なりと顯はす自身の当体、妙法蓮華經の藥草なれば現世安穩ごしなり。爰を開くを後生善処と云ふなり。妙法蓮華經と云ふは妙法の藥草なり。所詮現世安穩は色法、後生善処は心法なり。十界の色心妙法と開覚するを現世安穩後生善処とは云ふなり。所詮法華經を弘むるを以て現世安穩後生善処と申すなり云云。